

(仮称) 健都ライブラリー

設計基本方針 (案)

平成 28 年 (2016 年) ○月

吹田市

1	はじめに.....	1
	(1) 背景.....	1
	(2) 設計基本方針策定の趣旨	1
2	計画地の概要.....	2
3	コンセプト	3
4	基本方針.....	4
	(1) 健康、医療、スポーツに特化した専門コーナー.....	4
	(2) 動いて、測って、調べて予防する健康応援コーナー.....	4
	(3) 健康体操や健康講座など各種講座ができる多目的室.....	4
	(4) 居心地のいい読書環境の提供.....	4
	(5) すいたメモリアルとしての機能展開	5
5	導入機能等	5
	(1) 蔵書数	5
	(2) 導入機能.....	5
	(3) イメージ.....	8
6	前提条件及び配慮事項	9
7	スケジュール（予定）	10

1 はじめに

(1) 背景

北大阪健康医療都市（健都）においては、国立循環器病研究センター等の協力を
受け、我が国トップレベルの健康・医療のまちづくりを担う公園として、健康への
「気づき」「楽しみ」「学び」をコンセプトに、健康増進公園の整備を進めていま
す。

健康増進公園の整備に当たっては、医師や学識経験者、専門家で構成される検討
会を設置し、市議会での議論や周辺地域の市民への説明等も行いながら、平成27
年（2015年）12月に北大阪健康医療都市 健康増進広場整備方針を定めました。

健康増進公園は、同整備方針において、「健康・医療のまちづくり」基本方針（平
成26年5月）に示す健康寿命の延伸に資するよう「公園から始まる健康づくり」
として、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院等の協力・監修を受けな
がら市民自ら予防医療を実践できる場であることをプラットフォームに据え、①主
体的な健康づくりの促進②個人・グループでの健康づくり③年間を通じ運動イベン
ト等の開催④複数のウォーキングコースの配置の4つの特徴を持つ公園としまし
た。そして、多世代が集い、交流できる公園として、健康への「気づき」「楽しみ」
「学び」をコンセプトとしています。

（仮称）健都ライブラリーは、健康増進公園における市民の積極的かつ継続的な
健康づくりを支援する拠点として、多世代が身近に利用でき、「気づき」「楽しみ」
「学び」のコンセプトに合致する図書館が持つ機能を更に多機能化し、整備方針が
示す健康増進公園に必要なパーク施設の機能が融合した施設として整備すること
としました。

(2) 設計基本方針策定の趣旨

（仮称）健都ライブラリーは、図書館の機能に加えて健康増進公園の一部として、
健康増進広場整備方針が示すパーク施設に求める機能を有する施設で、特定の目的
を持った一般的な公共施設とは異なり、多様な機能が効率的、効果的に発揮される
動線や空間づくりとともに質の高い建物として、国際級の複合医療産業拠点を形成
する健都にふさわしいデザインである必要があります。

このため、この設計基本方針は、（仮称）健都ライブラリーの ①コンセプト ②
基本方針 ③導入機能 ④前提条件 ⑤配慮事項など同整備方針が示すパーク施
設の機能を利用する市民や設計者に具体的に示すことを目的として策定するもの
です。

2 計画地の概要

(仮称) 健都ライブラリーの計画地の概要は次のとおりです。

- (1) 計画予定地：吹田市岸部新町2番の一部、同3番地内
- (2) 建物規模：建築面積 約 1,000 m²、延床面積 約 1,800 m²程度
- (3) 地域地区：第1種住居地域
- (4) 建ぺい率：30% (地区計画で制限)
- (5) 容積率：200%
- (6) 地区計画：北大阪健康医療都市地区地区計画
- (7) 高さ制限：15m (地区計画で制限)

緑のふれあい交流創生ゾーン(1)地区

- (8) 前面道路：天道岸部線 幅員16m
- (9) その他：北部大阪都市計画土地地区画整理事業施行区域、吹田操車場跡地地区低炭素まちづくり計画、景観形成重点地区(予定)、屋外広告物重点地区(予定)など

(位置図)



3 コンセプト

(仮称) 健都ライブラリーは、我が国トップレベルの健康増進公園のパーク施設の機能や図書館の基本的機能に加え、健都での新たな取組を踏まえ、『健康に「気づき」、「楽しみ」ながら「学べる」』の3つの柱による多世代が集い、交流し、健康寿命延伸（生涯活躍）につながる場として、以下のとおり整理します。

「健康・医療のまちづくり」基本方針 (H26.5 策定)

- ・まちづくりの「吹田モデル」を創成し、世界をリードする健康都市に
- (1) 予防医療や健康づくりの推進により市民の健康寿命の延伸を図り
- (2) 高齢者等の生きがいつくりや、こうした力を活用した地域活性化を進め
- (3) 健康・医療のまちづくりの「吹田モデル」を先進例として示し、健康都市を目指します

吹田市立図書館基本構想 (H25.4 策定)

基本理念

- 必要な資料・情報をいつでも、どこでも、だれにでも提供する

図書館の施設整備に係る課題の解消

- 図書館利用が不便な地域である、岸部地域への図書館整備を図る

■パーク施設

- (1) 健康増進公園の機能を担うパーク施設
- (2) 公園から始まる健康づくりをサポート
- (3) キーワードは、自然に健康を「意識・楽しみ・学べる」
- (4) 機能イメージ
 - 季節や天候を気にせず健康づくりができる多目的ルーム
 - 栄養バランスや素材等にこだわった健康カフェ
 - 公園での気づきと学びをサポートする図書機能
 - 多世代が交流し、健康講座も開催できる会議室
 - この地にある、幅広い世代から根強い人気のゼロ系新幹線を活用

健康増進広場整備方針 (H27.12 策定) 公園の基本コンセプト

- 「健康・医療」をキーワードに、多世代が集い、交流できる公園
- (1) 自然に健康を「意識」する公園
 - (2) 「楽しみ」ながら健康になれる公園
 - (3) 健康のコツが「学べる」公園
- 『公園から始まる健康づくり』

(仮称) 健都ライブラリーの基本コンセプト

健康に、①**気づき** ②**楽しみ** ③**学べる**
の**3つの柱**による
多世代が集い・交流し、
健康寿命延伸（生涯活躍）につながる場

■図書館基本構想が示す岸部地域の図書館のあり方検討

- (1) 「健康・医療のまちづくり」を支援し健康でアクティブな生活を提案する新たな取組
- (2) キーワードは、「気づき・学び・楽しむ」
 - 市内10番目の岸部地域の図書館
 - 健康・スポーツ関連の蔵書が充実
 - 公園での気軽な健康づくり等を蔵書やDVDでサポート
 - 図書館での学びを公園で実践
 - オープンデッキで公園を見ながらのんびりランチや読書
 - ボランティアが活動をサポート、生きがいのきっかけづくり
 - データベースや映像資料の充実（患者や家族、高齢者を支援）

吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H28.3 策定)

- 健康やスポーツに関する図書を充実させた（仮称）健都ライブラリーの整備
- 健康づくり、生きがいつくり、就労、社会活動、生涯学習等に関する取組が主体的に創出される環境の整備
- 地域との協働により、健都全体で生涯学習活動を推進

4 基本方針

多世代が身近に利用でき、「気づき」「楽しみ」「学び」のコンセプトに合致する図書館が持つ機能を更に多機能化し、整備方針が示す健康増進公園に必要なパーク施設の機能が融合した施設として、健康増進公園の機能を担い、市民自ら積極的かつ継続的な健康づくりができる学びや気づきの拠点となる（仮称）健都ライブラリーのコンセプトを実現するため、次の基本方針に基づき、施設計画を進めるものです。

なお、（仮称）健都ライブラリーは、吹田市立図書館基本構想（平成25年4月）において、「図書館利用が不便な地域である、岸部地域への図書館整備を図る」と示されていることも踏まえ、市内10番目の岸部地域の図書館として整備します。

「健康」をきっかけに多世代が集い・交流し、 健康寿命延伸（生涯活躍）につながる場

（仮称）健都ライブラリーでは、健康づくりや運動をきっかけに、人々が自然と出会い、交流を促す空間デザインや動線とした上で、世代を超えた新たな交流により、仲間づくり、ボランティア活動など、自らが健康でアクティブな生活につながる環境づくりを目指します。

（1）健康、医療、スポーツに特化した専門コーナー

小さい子どもから大人までを対象に基礎的なものから専門的なものまで、目的にあわせた健康、医療、スポーツに関する図書に重点を置いた情報を収集し、提供します。国立循環器病研究センターや市民病院を訪れた方への情報提供や、市民に健康への気づきと運動のきっかけを作る場とします。

（2）動いて、測って、調べて予防する健康応援コーナー

自ら健康を感じ、知る機会を提供します。自然や季節を楽しみながら歩いて図書館へ出かけ、途中の公園で体力測定。図書館で血圧や体重などを測定し、自分の身体を本で調べてみれば、ここから気になる病気を予防する取組が始まります。

（3）健康体操や健康講座など各種講座ができる多目的室

健康への気づき、運動のきっかけづくりができる空間を提供します。誰もが気軽に参加できるような入門編から、自らが楽しみながら積極的に継続できるものなど様々な方に、運動講座や健康講座などを提供します。

（4）居心地のいい読書環境の提供

栄養バランスや素材にこだわったランチの提供など健康カフェを設け、健康への気づきを提案します。また、ウッドデッキでは、緑豊かな公園や子供たちの遊

ぶ姿などを眺めながら、季節や風を感じる心地よい学びの環境を提供します。

(5) すいたメモリアルとしての機能展開

市民が吹田の歴史に触れるきっかけを提供し、博物館へのポータルとしての機会を提供します。大正12年(1923年)に国鉄吹田操車場の操業開始により「操車場のまち」と呼ばれたこの場所で、操車場の歴史、この地での発掘の記録を定期的に紹介します。そして、様々な世代から根強い人気のゼロ系新幹線を展示し、高度成長期を支えた鉄道のまちの記憶を残します。

5 導入機能等

基本方針に沿った(仮称)健都ライブラリーを実現するため、次のとおり導入する蔵書数や機能を想定しています。

(1) 蔵書数

内容	冊数
開架図書	50,000冊
閉架図書	15,000冊

(2) 導入機能

機能	内容	面積
一般図書コーナー	約30,000冊を収蔵します。	
児童図書コーナー	約15,000冊を収蔵します。子供の身長を考慮し、書架段数は4段までとします。	
絵本コーナー お話室	児童図書に隣接して靴を脱いでゆっくりと絵本を読めるコーナーを配置します。この一角には区切ってお話会ができるようなスペースを設けます。大型絵本20タイトルと紙芝居約200組を収蔵します。	
健康・医療・スポーツコーナー	約5,000冊を収蔵します。展示のための特設コーナーも設けます。	
雑誌コーナー	100種(1年分のバックナンバーを収蔵します。)	12㎡程度
新聞スペース	9紙を取り扱います。内6紙について過去1年分のバックナンバーを収蔵します	

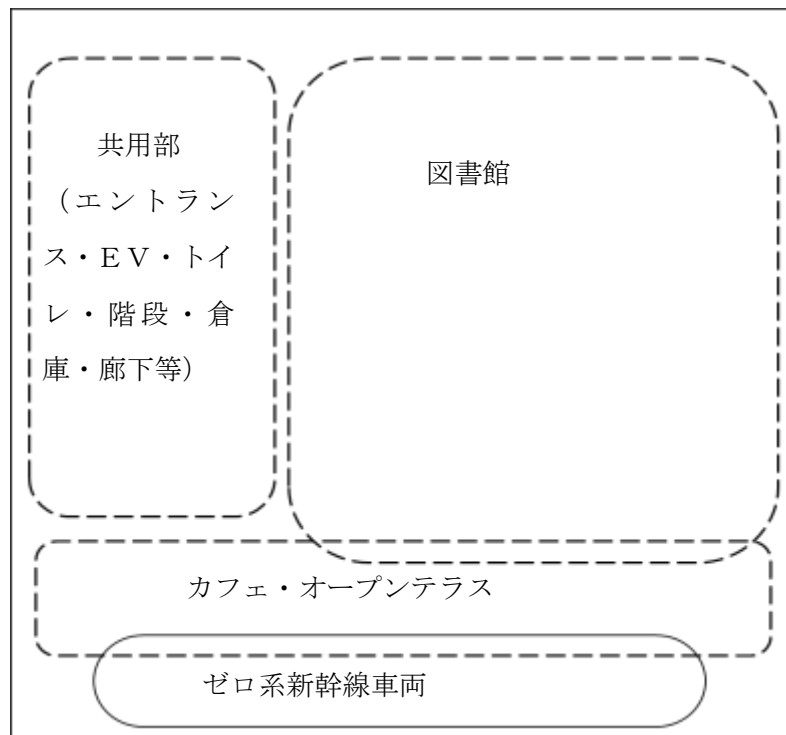
映像コーナー	DVD 1,000 枚、CD 2,000 枚収蔵可能とし、視聴も可能とします。視聴席は 3 席以上を設けます。	
閲覧スペース	1 人用から 6 人用テーブル、ソファ、スツールなど利用スタイルに応じて選べる座席を一般、児童用合わせて 80 席程度用意します。ソファなど椅子については、1 人 1 人のスペースを明確にします。 拡大読書器など弱視の方に対応できるよう機器を設置します。	
PC コーナー	医療系情報データベースを始めとする有料データベースだけでなく、国会図書館のデジタル化資料送信サービス、インターネット検索が利用可能な端末を設置します。端末設置台数は 3 台から 5 台を目安とします。	20 m ² 程度
サービスカウンター	登録受付・貸出・返却・予約受付・施設案内などの業務を実施します。 カウンター位置は、閲覧室全体を見渡せるような配置とします。 背後には、参考資料を置く棚を用意し、市内の図書館（7 館 2 分室）へ配送する図書などを置くスペースを設けます。	
予約棚コーナー	予約した図書が並んでいるスペースです。予約した市民が図書を自分で探して受け取れ、他の人が出入りできないように一方だけ開放されている棚空間とします。	20 m ² 程度
自動貸出機・館内 OPAC スペース	自動貸出機 3 台、館内 OPAC 3 台を配置します。（OPAC：蔵書検索機）	
レファレンスカウンター	市民・児童・生徒の調べものを支援します。健康医療情報の利用に向けた支援業務を実施し、サービスカウンターとは独立して設置します。 背後には、参考資料を置く棚を用意します。	

事務スペース	事務室、消防設備、放送設備、電気設備等監視盤を設置します。 また、作業室及び給湯室を設置し、スタッフミーティングが実施できるスペースとします。(ロッカールーム含む。)	80 m ² 程度 12 m ² 程度
書庫スペース	集密書架、固定書架を合わせて約 15,000 冊収蔵可能な規模とします。	
対面朗読室	ロッカー、机・椅子・録音機材を設置します。外部に音が漏れることのない構造とし、内部を確認できるようにガラス面を設けます。	10 m ² 程度
授乳室	授乳椅子、ベビーベッド及び給湯設備を配置します。	6 m ² 程度
多目的室	講演会・講座・軽スポーツに使用します。講座用机・椅子 80 席を配置します。使用しない場合は格納できるスペースを設けます。 映像設備、ダンスレッスン等にも対応できるように鏡面を設置します。音楽等が外に聞こえないように遮音でき、振動も他に伝わらないような構造とします。	100 m ² 程度
会議室・交流室	少人数講座や交流活動ができるスペースです。	60 m ² 程度
健康応援コーナー	体重計や血圧計を置きセルフチェックできるスペースです。健康情報の掲示、展示を行います。	
カフェ	健康に配慮したコンセプトが伝わるカフェを設けます。ここでは軽食も提供し、ウッドデッキも利用できます。	80 m ² 程度
ウッドデッキ	公園を眺めながらゆったりできる憩いのスペースです。テーブル・椅子を置き、読書や飲食可能な場所となります。	
事務所スペース	事務処理や控室などで利用するスペースです。	30 m ² 程度

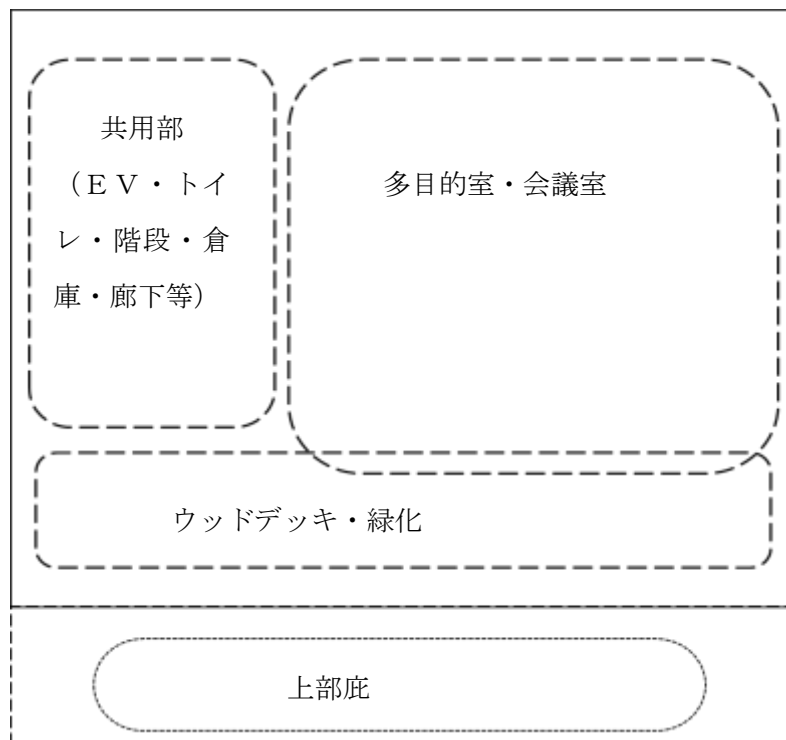
(3) イメージ

ア 1階機能イメージ

健康
増進
公園



イ 2階機能イメージ



※ 機能イメージであり、配置を決めるものではありません。

6 前提条件及び配慮事項

項目	前提条件と配慮事項
全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 吹田操車場跡地地区低炭素まちづくり計画(平成27年3月)に沿った建物計画とします。 ● CASBEEー建築(新築)2014年版の外部認証機関による認証を取得します(Sランクを目標とする)。 ● ライフサイクルコストの低減を念頭に置いた設計とします。 ● 国際級の複合医療産業拠点にふさわしいデザイン性のある質の高い建物とします。 ● 施設の延床面積は1,800㎡程度とします。 ● 閉館中に入出りできる通用口を設置します。 ● 全ての人に優しく利用しやすいユニバーサルデザインによる施設計画とします。
図書館機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来のレイアウト変更に備えて、床荷重を書架を置ける強度にします。 ● 他館と資料のやり取りをする配送車が雨にぬれずに停まって荷卸しできる駐車スペースを確保します。 ● 一般の方が24時間利用可能な公衆トイレは、施設内に置き、開館中は利用者の利用がしやすい場所に配置します。盗難防止用ゲートでの管理、安全面での管理が容易になるように、照明、配置等に留意します。 ● 児童閲覧室には、児童用トイレを別に設置します。 ● 書架と書架の間は、車椅子と人が楽にすれちがうことができるよう書架の芯々で2m以上とします。 ● 児童用座席は、年齢層に合わせて2～3段階のものを用意します。 ● 鉄道の歴史や、発掘の記録等を紹介できるコーナーを確保します。 ● 書架スペース及び閲覧スペースについては、十分に明るさを確保します。 ● 夜間でも借りた資料を外から返却できるようにブックポストを設けます。

多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内運動が可能な構造とし、会議室等にも活用できるスペースとします。 ● 机や椅子を収納可能な倉庫付き、映写スクリーン、ホワイトボード、鏡張り、防音設備を備えます。 ● 多目的室・会議室は、利用状況が外からわかるようにガラス張り（必要な場合にはプライバシーを確保できるようにブラインド等を設置）とします。
ゼロ系新幹線	<ul style="list-style-type: none"> ● 新幹線車両を施設の一部と位置付け、できるだけ自然の影響を受けないよう、管理が容易であるものとします。 ● 線路側から、あるいは公園からでもシンボリック的存在となるようなデザインとします。 ● 施設にあっては、身近にある生きた学習教材として活用できるような方法を提案します。
整備プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて、市民説明会や意見交換会を行い、近隣住民や団体等の意見を踏まえた設計とします。

7 スケジュール（予定）

	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	平成 31 年度 (2019 年度)
基本設計	→			
実施設計		→		
工事			→	○

開館予定